

## 令和元年度 第1回那須地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録（要旨）

開催日時 令和元年7月3日（水） 午後1時30分から午後3時まで

開催場所 那須塩原市役所 本庁舎 3階 303会議室

出席委員 9名

欠席委員 2名

那須塩原市 企画部長

事務局 那須塩原市 企画部企画政策課 2名

構成市町 大田原市 政策推進課 1名

那須町 企画財政課 1名

那珂川町 企画政策課 1名

傍聴者 なし

### 1 開 会

### 2 委嘱状交付

### 3 あいさつ（企画部長）

### 4 自己紹介

### 5 会長、副会長選出

次のとおり、選出されました。

会 長 山島 哲夫 委員

副会長 村山 茂 委員

### 6 内 容

#### (1) 那須地域定住自立圏について

#### (2) 平成30年度、令和元年度の取組について

（事務局より一括して説明）

#### 【質疑応答】

委員： オープンデータについて、305,893件の情報開示請求があったということか。  
利用目的は経済活動なのか。情報開示を請求した事業者はどういった事業者か。

事務局： オープンデータについては、情報開示請求があったものを開示しているサイト  
ではなく、統計データ等の行政データについて、圏域の4市町のデータをまとめ

て公開しているサイトです。「Open Data 那須」というサイトで、各市町のホームページ等で個別に公開されている情報について、同じ切り口で圏域の4市町の情報を閲覧、ダウンロードできるサイトになります。

**委員**： 那珂川町の地域資源・再生可能エネルギーの視察はどういったメンバーで行ったのか。

**事務局**： 創生なかがわ株式会社様にコーディネートいただき、各市町の担当者と伺いました。行政の職員のみです。

**委員**： 創生なかがわは地域おこし協力隊が関係しているものか。

**那珂川町**： 若干関係していますが、那珂川町が出資等を行い、設立した会社です。

**委員**：（関係者として）視察の実施等、今後は情報共有いただきたい。

**事務局**： 承知いたしました。

**委員**： バイオマス燃料だと燃料となる木材の調達が滞るという話を聞くことがあるが、いかがか。

**委員**： 町や森林組合、商工会の協力を得て、補助金等もいただきながら活動している。林業の循環型社会を、皆さんの協力得て上手く実施している。

**委員**： スマートシティの研究視察はどのような目的で実施したのか。資源に対して、例えば那珂川町のバイオマス事業に圏域として支援、協力をし、それによって継続性がつながっていくように、そのために視察をしたのかと思うが。循環型社会を圏域で進めるための視察かと思うが、その辺をお聞かせいただきたい。

**事務局**： 最初に部会を開催した際、共同で取組めるものがあるか検討しましたが、それぞれ特色も異なることから、具体的な事業としてすぐに取り組むのは難しいという

ことになりました。そうした中で、それぞれの市町の特徴を活かした取組について視察し、具体的な事業として取組むことになった際に活かせるように、調査研究に取組もうということになりました。現段階では、視察を実施し、内容を共有するというところで留まっております。

会 長： 具体的に事業化していくのは各市町色々であり、国の制度などもあり、直ぐには難しいと思うが、お互いどのような取組を行っているのか知ろうということだ  
と思う。

委 員： 新しいものをつくるのではなく、各市町に今あるものをいかにバックアップして  
いくかという研究も必要かと思う。

会 長： 単独で資源が不足する場合に、圏域で協力し合うことはできるかもしれない。

委 員： 再生可能エネルギーについては、我々も入れたいと思っているが、系統が太陽  
光でかなり入っている。この辺だと2023年にならないと入らないということで、今  
は募集プロセスを実施しており、上位系統を2023年までに整備し、予約された方々  
に対応していくこととしている。我々としても、再生可能エネルギーを入れなが  
ら、地産地消に協力できたらと思う。情報提供できることがあれば、この場で提  
供していきたい。

### (3) 那須地域定住自立圏の今後の取組について

(事務局より説明)

委 員： 我々は移住・定住の取組を進めているが、例えば高校生のお子さんが出て、高  
校の転学の相談を受けた場合、我々は希望高校の先生と面談・相談をする。那須  
地域の総合観光案内所での移住・定住の情報提供というのが産業振興の分野の提  
案に入っているし、交流の分野の提案にも総合的な移住・定住の提案がある。圏  
域の市町の全ての情報が集約され、行けば相談ができる場所が、那須塩原駅前あ  
たりに、総合サポートセンターというような形であると、非常に便利かと思う。

会 長： 確かに高校の問題は大きいと思う。

委 員： 高校生のお子さんがいらっしゃるような方が移住を決めているわけだが、一番の決め手はなにか。

委 員： 子育てをする中で、親自身も少し静かなところで暮らしたいということがある。例えばお子さんが3人いる場合、一番下の子が小学校にあがるタイミングとすると、上の子が高校一年生だったりする。小学校、中学校であれば、市町村で完結できるが、高校はそうはいかないので、圏域を超えて相談できるようにしないといけない。例えば栃木県内であれば、那須塩原駅から1時間で宇都宮に通えることをお伝えし、いかがか伺う。

委 員： サポート体制が充実していて素晴らしいと思う。それを首都圏に向けて、もっと圏域内で共同で情報発信することで、より効果をうむかと思う。

会 長： こういった総合サポートセンターをどのようにつくっていくか、来年からこういった場で議論していきたいと思う。

委 員： イベントは前に比べると多くなったと思うが、イベントだけだと単発で終わってしまうかもしれないし、いつ誰がどこでも相談できるような体制づくりもすごく大事である。思い立った時に行ける案内所のようなものが、小さくても良いから、那須塩原駅の近くにあり、各市町の方が交代でも良いので誰かしらいるような体制をとるとすごく良いと思う。

この地域は境界がなく、鳥獣対策にしても、圏域で取組む必要があると思う。大田原市でイノシシを捕獲した方に、那珂川町に持っていけば良いのにと話をしたら、那珂川町は那珂川町のやり方があり、持っていけないので、埋めてしまうというような話を聞いたことがある。

公共交通の部会があるが、定住自立圏を考えて行く上で、大事なのは公共交通なので、この中にバス会社の方が入っていないのがもったいない。バス会社同士のすり合わせを少しでも早くやらないと、ちょっと遠出しようという時に中々良

い方法がない。公共交通の部会では具体的にどういったことをやっているのか気になる。

**委員：** 那須塩原市、那須町には単体で参画させていただいているが、色々努力されていて、きゅーび一号や那須から日光に至るバスの運行、スクールバスやデマンド交通、その他に定時路線バスなど形としては一応整っている。生活交通、観光用の二次交通、商業用の二次交通の3つぐらいに分かれるが、それぞれ痛し痒しがある。特に観光の場合、繁忙期、閑散期で極端な観光客数のぶれがある。それを12ヶ月維持していくこと自体でコストがかさむ。実際問題、行政や関連事業者がコストを負担する中でしか運行できない。そうすると利用者側から、特に繁忙期については、足りないと言われる。そこで、今回那須町さんは自家用有償旅客運送ということで、デジタルテクノロジーを使った事業展開をされるということがあるが、既存のタクシー業者からすると、その方法は厳しい。だが、実際問題、繁忙期において、事業者側のサービス提供不足はご指摘のとおりである。そんな中で労働者確保に苦勞している。それをカバーするにはどうするのか考えなくてはいけない中で、自家用有償旅客運送は生活交通、商業交通、観光交通のすべてに適用できる。辛い所ではあるが、ポジティブにやらなければならないと思う。

**会長：** こういった地域で一番大きな問題は交通である。行きたいところに中々行けない。バスもほとんどなく、バスに合わせて電車で来て、バスの時間の間に戻ってこないといけない。大変だが、引続きやれることをやっていく必要がある。

**委員：** 人口が高齢化し、今までは那須はマイカーで来るイメージだったが、それが変わってきて、高齢者含め、免許を持たない若者や外国人が、那須というのは駅に行ってからどうにもならないというイメージが先についていたので、何とかしないといけないということで、既存の路線バスの見直しなど、公共交通を残していく方をまず考えないといけないということになり、お互い譲り合いながら色々運行している。一般の人にとっては非常に魅力的でも足がないといけないところに運行し、お客様がどう動くのかを実験的にやろうと。

**委員：** バスの種類が色々あり、調べるのが大変である。まとめサイトのようなものが

一つあり、そこにアクセスして、今いる場所と行きたい場所を入れれば、行き方がぱっとわかるようなものがあると良い。

委員： そういう話は那須町でも出ると思うが、那須塩原市でも出る。つくれば良いのではないかと言っている。

委員： そうすると誰がお金を出すのか、誰がやるのかという話になる。

委員： だが、それは絶対にやった方が良くと思う。

委員： 広域でそういう動きがあると良い。

委員： 乗換案内のサイトに登録すると全部ルートが出るのでわかりやすい。ただ、ここにお金を払っている。全部の会社がやれば全部出るようになるが。

会長： 色んな協議をしてそういう方向に持っていければ良いと思う。あとは、アートは良いと思う。美術館など、素晴らしいものがたくさん集まっている。アートが那須と似合うので、アートのまちというイメージができると良い。

新しい事業の提案もあるが、これから中身を具体的にして、10月の会議にかけるということでよいか。

事務局： 提案があった事業について、事業ごとに検討を進めていただいているので、それらをまとめ、次期共生ビジョンという形にしたものを次回の懇談会でご提示したいと思います。

委員： アートについては、色んなアートのグループがある。どこかまとめる場所があると良い。まとめる方法があると良いと思う。

委員： 先ほどオープンデータの話があったので、今調べてみたが、バスの情報が出ていない。確かに色んな情報があるが、なぜバスがないのかと思いながら見ていた。ぜひ検討すべきだと思う。

**委員**： 移住・定住、結婚サポート事業が地域内外住民との交流促進というテーマであるが、今、自分は子育て世代であるが、子連れで行けるお店や、見に行ける施設のママ MAP・子育て MAP がそれぞれの市町でまとめたものはあるが、広域でまとめると良いと思う。観光誘客にもつなげられるし、子育てにやさしいまちというイメージをつけることは大事である。というのは、ママ達はママ友同士のつながりで、そのまちの良さや制度などを知る。もちろん役所に行けば教えてくれるが、横の連携が弱いというのは、他の地域から嫁いで来たママたちの間では話がでているようである。子育て世代に対する移住・定住促進にもつながるし、結婚サポートとしても連携してくるので、その事業は一つ入れても良いと思う。

**会長**： 色んな人から、この圏域で何があったら良いかということを具体的に聞いてみて、それでできるものは載せていくように、少しリサーチをしてみる必要があるかもしれない。

**事務局**： 那須塩原市版のママ MAP については、お母様方にご協力いただき、かなり自分たちで作っていただいたので、おもしろくて良いものができました。もう少し広域で連携をはかり、圏域内で行き来ができるようなものをつくり、そういったものをオープンデータの中で公開できると良いかと思います。

**会長**： 本日の議論を踏まえて、事務局の案を作成いただければと思います。

## 7 その他

### ○ 事務局

次回の懇談会についての連絡

日時：令和元年10月3日(金) 午後1時30分～

会場：那須塩原市役所 本庁舎 3階 303会議室

## 8 閉 会 (午後3時)